

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0570207779		
法人名	有限会社せせらぎ		
事業所名	グループホームせせらぎ(せせらぎ棟)		
所在地	秋田県能代市落合字下谷地251-6		
自己評価作成日	令和1年10月20日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 秋田県社会福祉事業団		
所在地	秋田市御所野下堤五丁目1番地の1		
訪問調査日	令和1年11月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

落合自治会に加入し新年会、総会、清掃活動、盆踊りに参加している。子供会の七夕来訪、老人クラブの運営推進会議への参加など地域との交流を深めている。関連施設合同の秋さのレクリエーションを開催家族、自治会の人たちの参加により交流を図っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

掃除が行き届いており、ハイター消毒もこまめにされており、衛生面に力をいれている施設である。掃除も1日3回以上行われており、嫌な臭いも無く清潔感がある。資格取得など、職員のスキルアップにも努めており、研修への参加もしやすい環境となっている。職員みんなが意見を出しやすい環境で今年度の目標である笑顔を大事に常に支援にあたっている。自治会の行事に参加したり、施設の行事の案内をしたり、地域住民との良好な関係が築かれている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～53で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
54	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	61	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
55	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	62	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
56	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	63	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
57	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
58	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
60	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	企業理念を玄関に掲げ職員全員意識し実践につなげている。	企業理念を元に「笑顔」や「楽しさ」を大切に、毎年年度変わりに職員全員で意見を出し合い、目標を決定し、実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入しており清掃活動、定期的な集会等には積極的に参加している。盆踊りや子供七夕の行事にも声をかけてもらっており老人クラブや近隣の方々とも顔なじみである。	自治会の清掃活動は春と秋の年2回参加している。地域の子供七夕の行事では神輿が施設に来て披露しており、喜ばれている。施設でのバーベキューには町内の人も参加するなど交流が積極的に行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	自治会長、老人クラブ会長の運営推進会議への参加交流などにより話し合いを持っている。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームでの活動状況、入居者の状況、研修報告などを伝え、意見を聞きサービス向上に活かしている。	マンネリ化について危惧し、地域住民の幅広い意見を聞ける会議にしたいと考え、会議開催場所を変えたり、会議にイベントのコラボレーション(研修に行った職員の発表等)などを取り入れたり工夫している。又、会議の内容を回覧板に載せたり、自治会長を通して団地の人と交流を図ったりとサービス向上につなげている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に市職員1名参加して頂いている。相談事項があった際には直接出向いて指導を受けサービス向上に活かしている。	市からネットやFAXで感染症予防について等、都度に情報が発信されており、施設として活用している。又、虐待に繋がらないよう、センサーや身体拘束について相談しサービス向上に活かしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はしていない。玄関にセンサーを取り付けており施錠をしないケアに取り組んでいる。	毎年社内研修を行っている他、「身体拘束適正化検討委員会」を設置し、3カ月に1回開催しマニュアルの確認を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内研修を行い職員会議でも話し合いの場をもち見過ごされることがないように注意している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者や職員は必要性を認識している。社会福祉協議会でやっている日常生活自立支援事業を活用を検討もしている。成年後見制度は関心は薄く活用できるよう支援していきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約を結んだり解約する時には利用者や家族などに契約内容を再度説明し不安や疑問点を聞かれた時には十分な説明をし理解、納得を図るよう勤めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に苦情処理箱を設置している。要望、意見があった場合職員会議で話し合い運営に反映させている。 家族会、運営推進会議への参加で外部者へ表せる機会を設け運営に反映させている。	運営について、年1回の家族会で(遠方者は書面で)わかりやすく説明し、質問や意見を出して頂いている。又、今年度より、施設の運営をより良いものとする為、3か月に1回入居者満足度アンケートを取り入れている。	家族や本人にアンケートを取り入れ意見を聞く努力をしている。3か月に1回行っているが、内容の見直しをしながら、さらに運営に反映していくことに期待する。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会議において職員の意見や提案などを聞いている。管理者会議において伝え情報を共有し利用者のサービス向上に努めている。	職員同士、日々の業務で気付いた事を、気付いた時に意見を出し合える環境になっている。また、職員はダメかもしれないがやってみる、やってみてダメなら別を考えるといった、まずは行動し実行する事を大切に考え、管理者も否定や拒否をしないよう心掛けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の努力や実績勤務状況を把握している。職員に対して感謝の気持ちを伝え向上心を持って前向きに働ける環境整備、条件の整備に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修を実施している。研修参加者が職員会議で講師役となり職員全体で学ぶ機会としている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修等で交流する機会があり情報交換などサービスの質の向上させる取り組みをしている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者本人に安心して過ごして頂けるよう不安や要望に耳を傾けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス導入前から不安や要望などに耳を傾け信頼関係を築いている。気軽に相談できるような関係作りに勤めている。		
17		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者のできる事を見つけ職員と一緒にいる。終わった後は労いの言葉をかけ対応、支え合う関係を築いている。		
18		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	近況報告を頻回とし一緒に本人を支える関係を築いている。		
19	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	職員は本人と一緒に食材の買い物に出かけたり馴染みの美容院などへの外出し関係が途切れないよう支援に努めている。	入所前から通っている美容院や、馴染みの店へ買物をしに行くことで、馴染みの関係維持に向け支援している。又、自宅へ帰ったり、墓参りに行ったり等、家族とも協力し支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握しており孤立せず係わり合いを持つよう職員が中に入って支え合うよう支援に努めている。		
21		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了(契約)しても介護などの相談に応じており関係を断ち切らないようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
22	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	今までの生活リズム、習慣を把握し集団生活の中でも利用者本位になるようサービス提供に努めている。利用者に対して満足度アンケートを実施し意向の把握に努めている。	常に利用者の話を傾聴し向き合って支援している。施設の利用に際しては、利用前の見学など受け入れに配慮し、利用者が不安にならないよう、事前に色々な情報を収集するよう努力している。利用者の動きや行動を見て感じ取り検討している。	
23		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人及び家族から今までの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがいなどを聞き把握することに努めている。		
24		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員は一日の過ごし方心身状態の把握に努めており変化があった場合は情報共有することとしている。本人の有する力が発揮できるよう支援している。		
25	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者や家族からの意見、要望等を職員会議やカンファレンスで話し合い、意見やアイデアを反映し現状に即した介護計画を作成している。	担当制を採用しており、各担当職員が利用者の意見や意向を聞き取り、毎日行われている職員会議で意見を出し合い計画を作っている。また、入院等で状態が変化した際など、本人の状態に沿った介護計画になるよう心掛けられており、家族が面会に来た際には出勤している職員がきちんと聴いて、家族の意向も計画に反映させている。	
26		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	カンファレンスの際に話し合われた意見やアイデアを参考にしながらモニタリングし課題の見直しを行い介護計画を作成している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	子ども会、老人会、自治会、民生委員、介護実習生の受け入れなどで地域資源を活用し支援している。		
28	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局などの事業所の関係は良好で本人及び家族の納得を得られており適切な医療を受けられるよう支援している。	基本的に職員が対応し、入所前から通っている病院を受診している。重度化し、受診に難儀する時には往診してもらえるよう支援している。薬局とは薬の飲み方の相談をしたりできる関係ができています。	
29		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問介護ステーションと医療連携体制を取っている。月2回の訪問時には日常的にきずいたことは報告し相談しながら健康管理の支援をしている。		
30		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院したときは医療連携室担当者、担当看護師及び家族との関係を密にし情報交換や相談に応じて安心して治療ができるよう支援している。		
31	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期の在り方については早い段階から本人や家族などと話し合っている。そのことは職員全体で方針を共有し地域の関係者と共に支援に取り組んでいる。	月に2回訪問看護を利用しているが、看取りの対応をしてくれる協力医が近隣には無い為、現在は看取りは行っていない。医師会病院に紹介状を書いてもらったり、特別養護老人ホームへの入所申し込みを行ったりし、次の施設へスムーズに移行できるよう支援している。	
32		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時に備え職員は救急救命を受講している。定期的に確認を行って実践につなげている。またマニュアルもすぐそばに備え付けている。		
33	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時の避難訓練は防火訓練時に実施し避難訓練場所は事業所の関連敷地が広く確保され地域住民の一員として協力が得られるように努めている。また発電機、ハザードマップも見える所に準備されている。	地域住民の避難誘導・見守りの協力の元、避難訓練が行われている。施設内に備蓄はしていないが、本部のホテルから緊急時・災害時には食料や毛布等運ばれてくる体制になっている。	

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
34	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者それぞれの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応はしておらずプライバシーの確保は徹底されている。	<p>尊厳を守るよう気を付けて支援している。利用者の意見はきちんと聞き、否定はしないようにしている。マニュアルの読み合わせを大事にしており、排泄確認は小さな声で行うなど配慮している。</p> <p>トイレはカーテンで仕切られているが、男女共用であり、今以上にプライバシーの確保が出来る工夫に期待する。</p>
35		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人がその人らしい思いや希望が表せるように働きかけ共同生活の中で納得しながら暮らせるように支援している。	
36		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりのペースを大切にしその日の希望を取り入れた支援をしている。	
37		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	家族の意見も聞きながら利用者の好みや季節に合わせた身だしなみやおしゃれができるよう支援している。	
38	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者のできる範囲内で職員と一緒に準備や片付けを行っている。また誕生日には希望を取り入れたメニューを作成している。	<p>畑を作っており、利用者はナスやキュウリ、トマト・ピーマン等収穫を楽しんでいる。食事の準備では、ランチマットを敷いたり、全員のティッシュを出したり、台拭きや食器拭き等利用者が行っている。誕生日の時は食べたい物の希望を取り、寿司やきりたんぼ、ラーメン等それぞれの要望に応じている。定期的に同法人の施設の栄養士からアドバイスを受けている。</p>
39		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の食べる量や栄養バランス、カロリー、水分量が確保されているか把握し利用者の状態や力量、習慣に応じた支援を行っている。	
40		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔内清潔保持のため、毎食後声かけにより口腔ケアを行っている。夕食後は毎日入れ歯洗浄剤に漬けて清潔保持に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し排泄パターンを把握している。声かけでトイレ誘導することによりオムツに頼らない自立に向けた支援を行っている。	薬にばかりに頼らず、食後に数分程度トイレに座る習慣を作る事で、排便コントロールを行っている。	
42		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	利用者の便秘原因や及ぼす原因をよく理解し飲食物、水分補給や適度な運動を行っている。		
43	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者の体調や希望、状況に合わせて入浴を楽しめるよう支援している。	基本的に日曜日以外はいつでも入浴できる体制になっており、週2回は入浴できるように支援している。入浴拒否がある場合は時間をずらしたり、信頼している職員が声掛けを行うなど工夫しながら行っている。入浴しない人は全員足浴を行っている。	
44		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者一人ひとり生活習慣や日々の状況に応じて安心して気持ちよく休息したり眠れるようかかりつけ医とも相談しながら支援している。		
45		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬のファイルを作成しており、薬の目的や副作用などについて理解している。また変更があった場合には速やかに周知し、薬剤師の説明も取り入れている。		
46		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者に出来る範囲内で役割を持っていただき生活歴や経験を生かせるよう支援している。水分補給時には本人が好む物を飲めるようにしている。ドライブ散歩など気分転換をはかっている。		
47	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩やドライブ、他施設訪問、買い物などに誘ったりと戸外に出かける機会を多く持てるよう支援している。	ドライブでは、能代公園で花見をしたり、エナジウムパークで食事をしたり、八森の紅葉を楽しんだり、ぼんぼこ山でラベンダーをみたりと楽しんでいる。同法人施設の行事に参加する事もあり、外出の機会を作る努力をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者がお金を持つ大切さは理解しているが家族の希望で利用者には持たせておらずホームで管理している。その中の一部を本人が持参し職員同伴で買い物に出かけている。		
49		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や大切な人からの電話の取次ぎや利用者が電話をしたい時は希望に沿い支援している。また手紙のやり取りもできるように支援している。		
50	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内には利用者と職員と一緒に作成した季節感が味わえる飾り物を貼り、行事の写真も貼っている。共有空間は掃除、消毒を行い不快がなく居心地よく過ごしていただけるよう配慮している。	朝・昼・夕と掃除を行っており、職員が掃除をしていると、利用者もほうきや雑巾を催促し、一緒に掃除している。手すりも毎日消毒しており、不快な臭いは一切無い。	
51		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間の中には利用者同士が思いおもいに過ごせるようにソファがありテレビを見たり新聞を読んだりしながら自由に過ごせるような居場所の工夫をしている。		
52	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	在宅中に使用していた馴染みの物を使用している。利用者個々の認知状況、ADLに合わせた居室作りになっている。	居室の壁に写真や飾りを貼るのが好きな人、嫌いな人、気にしない人、それぞれに合った居室作りを心掛けている。配置や衣替えは担当職員が中心となって行っている。電気製品の持ち込みはテレビ以外は難しいが、それ以外の持ち込みの制限は無い。	
53		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者が毎日生き生き生活できるよう十分な観察をし会話の中から本人のニーズを聞き出し対応している。		